

地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業計画書

1. 基本情報

自治体名	他市町村との連携	事業番号	事業名			
福島県	－	A-10	次世代へつなぐ震災伝承事業			
事業実施年度	当該年度総事業費	経費区分（該当区分に○を入力）				
R 8 年度	1,756,007 千円	①情報発信事業			②外部人材活用	
事業費	左記 事業費のうち 国費負担分	i 風評動向調査	ii 体験等企画実施	iii 情報発信コンテンツ 作成	i 企画立案のための外 部人材の活用	ii 地域の語り部の育成
29,209 千円	14,604 千円					○

2. 風評等の現状や課題、これまでの取組

自治体が抱える風評等の現状について											
○「風評・風化対策に関する情報発信分析事業（全国を対象とした Web 調査）」で以下のような結果が示されている。											
<福島県のイメージについて「良い」「まあまあ良い」の回答 単位%>											
震災発生前	震災発生後	H27.10	H28.8	H29.9	H30.9	R1.9	R2.9	R3.9	R4.9	R5.9	R6.9
43.8	20.4	28.7	33.8	37.1	40.6	41.1	43.0	46.1	52.0	51.4	49.0
<福島県産食品の購入意向>											
「福島県産は購入しない」と「福島県産をやや避けている」を合わせた割合 12.1％（R6 年）											
<福島県への訪問意向>											
「訪れたくない」と「あまり訪れたくない」を合わせた割合 14.4％（R6 年）											
上記の現状の原因となる課題について											
○東日本大震災・原発事故の風化が進む中、甚大な災害に見舞われた福島県の復興のあゆみを着実に進める過程等を後世に引き継ぎ、国内外へ共有できる人材の育成が必要である。											
○風化の進行が、風評が根強く残る一因となっている可能性があり、震災・原発事故の記憶・教訓の伝承とともに、福島の現状を発信していく必要がある。											
上記の課題に対するこれまでの自治体の取組について（自治体独自の取組を含む）											
○令和４年度事業では、「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議」を設置（ネットワーク会議登録団体数 17 団体）											

会長 青木淑子氏（富岡町 3・11 を語る会代表） 副会長 大谷慶一氏（いわき語り部の会会長）

ふくしま語り部ネットワーク会議 2 回実施し、次年度の事業計画についての検討や承認を行った。

語り部や震災伝承関係者の交流を図る「ふくしま震災語り部交流会」を開催。

ネットワーク会議の下部組織として、震災伝承者育成を目的とした「伝承者育成プログラムプロジェクトチーム会議」を設置し、2 回実施した。伝承者育成プログラムの構築を行った。

語り部県外派遣事業では、5 件の派遣を行った。

○令和 5 年度事業では、ふくしま語り部ネットワーク会議を 2 回実施。次年度の事業計画や伝承者育成講座計画についての検討や承認を行った。

ネットワーク会議登録団体数は 21 団体となった。

語り部や震災伝承関係者の交流を図るふくしま震災伝承者交流会を開催。

伝承者育成講座の実施により現役語り部を対象に 4 人の修了生を輩出。

プロジェクトチームは 3 回実施。課題と成果について育成講座の計画について検討した。

語り部県外派遣事業では、19 件の派遣を行った。

○令和 6 年度事業では、ふくしま語り部ネットワーク会議を 2 回実施。令和 6 年度伝承者育成講座計画の承認や県外語り部派遣の実施について共通理解を図った。

登録団体数は 23 団体となった。

語り部や震災伝承関係者の交流を図る「ふくしま震災伝承者交流会」を開催。

プロジェクトチーム会議を 2 回実施。育成講座の実施を踏まえ、課題と成果について話し合い、伝承者育成講座の計画について検討した。

育成講座では活動中の語り部のほか、語り部活動に関心のある一般の方を含め対象を拡大し、14 人の修了生を輩出した。

英語圏インバウンド対応のため、伝承者育成英語講座を開講し、3 人の修了生を輩出した。

語り部県外派遣事業では、44 件の派遣を行った。

○令和 7 年度事業

ふくしま語り部ネットワーク会議の実施（R7.5 月実施済み、R8.2 月実施予定）。ふくしま語り部ネットワーク会議臨時総会の実施（R7.7 月実施済み）。

登録団体数は 27 団体。

語り部や震災伝承関係者の交流を図る「ふくしま震災伝承者交流会」を開催予定（R7.12 月）。

プロジェクトチーム会議の実施（R7.7 月実施済み、R8.1 月実施予定）。

育成講座では活動中の語り部のほか、語り部活動に関心のある一般の方を含め、14 人が受講中。

伝承者育成英語講座は 4 人が受講中。

中国語圏のインバウンド対応のため、伝承者育成中国語講座を開講し、2 人受講中。

語り部県外派遣事業では、53 件実施見込（R7.11 月末時点）。

上記の取組における成果について

○令和 4 年度は、語り部県外派遣でモデル事業として 5 件派遣で聴講者約 200 人であった。

○令和 5 年度は、育成講座で 4 人の修了生を輩出。県外派遣で 19 件派遣、聴講者数 1,022 人となった。

○令和 6 年度は、育成講座で 14 人の修了生を輩出。県外派遣で 44 件派遣、聴講者数 4,167 名となった。

○令和 7 年度は、育成講座で 14 人受講中。県外派遣では 53 件の実施見込、聴講者数 5,013 人見込（R7 年 11 月末時点）。

なお、ネットワーク会議構成団体数は、設置当初の令和 4 年度では 17 団体であったが、令和 7 年 11 月末時点には 27 団体と増加し、伝承活動のネットワークが拡大した。

3. 事業内容の詳細

今年度の具体的な取組内容 ※以下の項目に沿って記載をお願い致します。

1. ネットワーク化・レベルアップ

①実施期間：令和 8 年 4 月～令和 9 年 3 月

②実施体制：単独

③実施場所：双葉町、富岡町

④概算費用：816 千円

⑤実施内容：

【東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議】年 2 回実施

・東日本大震災・原子力災害の記憶と教訓を後世へ伝えていくため、県内の語り部団体等が連携し、持続可能な震災伝承の体制構築を図り、各事業の企画・決定・実施を行う。

【交流会】年 1 回開催

・震災伝承者として活動している方々が集い、テーマに沿って意見交換等を行うことで、相互の研鑽を通じた全体のレベルアップを図る。

【先進地視察】

・戦争体験、被爆体験の伝承活動先進地である広島・長崎の伝承施設等を視察することで、福島の伝承活動に活かす。

2. 人材育成

①実施期間：令和 8 年 4 月～令和 9 年 4 月

②実施体制：単独

③実施場所：双葉町、富岡町

④概算費用：7,453 千円

⑤実施内容：

【伝承者育成プログラムの検討】

・語り部の後継者不足を踏まえ、様々な被災体験を客観的に伝える語り手（震災等伝承者）の育成体制等について、他県の先進事例等を踏まえ検討する。

・ネットワーク会議の下部組織として、育成プログラムを検討するためのプロジェクトチーム会議。年 2 回実施予定。

【伝承者育成講座の実施】

・検討 P T による検討・フォローアップを行いながら、伝承者育成講座を実施し、各団体それぞれで育成に取り組めるプログラムを策定し、ネットワーク会議を通じて各団体に共有する。

・ネットワーク会議構成員が主体となった、持続可能な次世代育成体制を構築する。

・インバウンドに対応するための「伝承者育成英語講座」「伝承者育成中国語講座」を実施する。

3. 県外への語り部派遣

①実施期間：令和8年4月～令和9年3月

②実施体制：単独

③実施場所：県外市町村

④概算費用：20,940 千円

⑤実施内容：

【県外語り部派遣】

・語り部の活動機会の拡大と定着、未曾有の複合災害の経験・教訓の発信による、風評払拭、交流人口拡大の効果を図る（派遣 80 回予定）。

・県外派遣の実施により、生の声による伝承の価値・重要性の需要拡大をねらいとした全国展開を図る。

【被災地視察研修】

・県外派遣震災語り部としての見識拡大及び資質向上を目的とした被災地視察研修を実施。

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

県外への語り部派遣で、未曾有の複合災害の経験や教訓を発信するとともに、語り部それぞれの視点により、被災地域の生活再建や産業復興の状況、食品等の安全性に関する取り組み等、福島の実状について発信する。

例：避難指示が解除された地域の生活インフラの復旧状況（公共交通機関や施設等）、高い品質管理のもとで作られた福島の農林水産物の紹介、生産者や販売者が行っている安全・安心への独自の取り組み等。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

県外への語り部派遣により、未曾有の複合災害の経験や教訓を発信するとともに、そこから立ち上がる福島の現状や、福島の魅力について発信する。

語り部の生の声で、震災の教訓のほか、これまでの復興のあゆみや、被災地域で復興のための取り組み、福島ならではの観光資源や食等の様々な資源の活用等を発信する。

例：伝承館や J-VILLAGE 等の施設、復興祈念公園、請戸小学校等の震災遺構、浅野燃糸等の立地企業、道の駅なみえ（大堀相馬焼、磐城寿、ラッキー公園）、夜ノ森の桜や海水浴場、双葉町ダルマ市等のイベントなど

4. 事業における目標等

今年度におけるアウトプット ※定量的な目標に限る	今年度におけるアウトカム ※定量的な目標に限る
県外への語り部派遣による県外派遣者数 53 人	県外への語り部派遣による聴講者数 5,013 人

長期的な目標 ※ 1つ以上は定量的な目標を設定	長期的な目標の現在の進捗状況 ※達成度合いも記載（○％）
県外への語り部派遣による、聴講者の満足度（聴講者アンケート） 満足・やや満足 80% （選択肢：満足、やや満足、ふつう、やや不満、不満、わからない）	令和 7 年度実施分については集計中。（令和 7 年 11 月末時点）